たどつのむかし

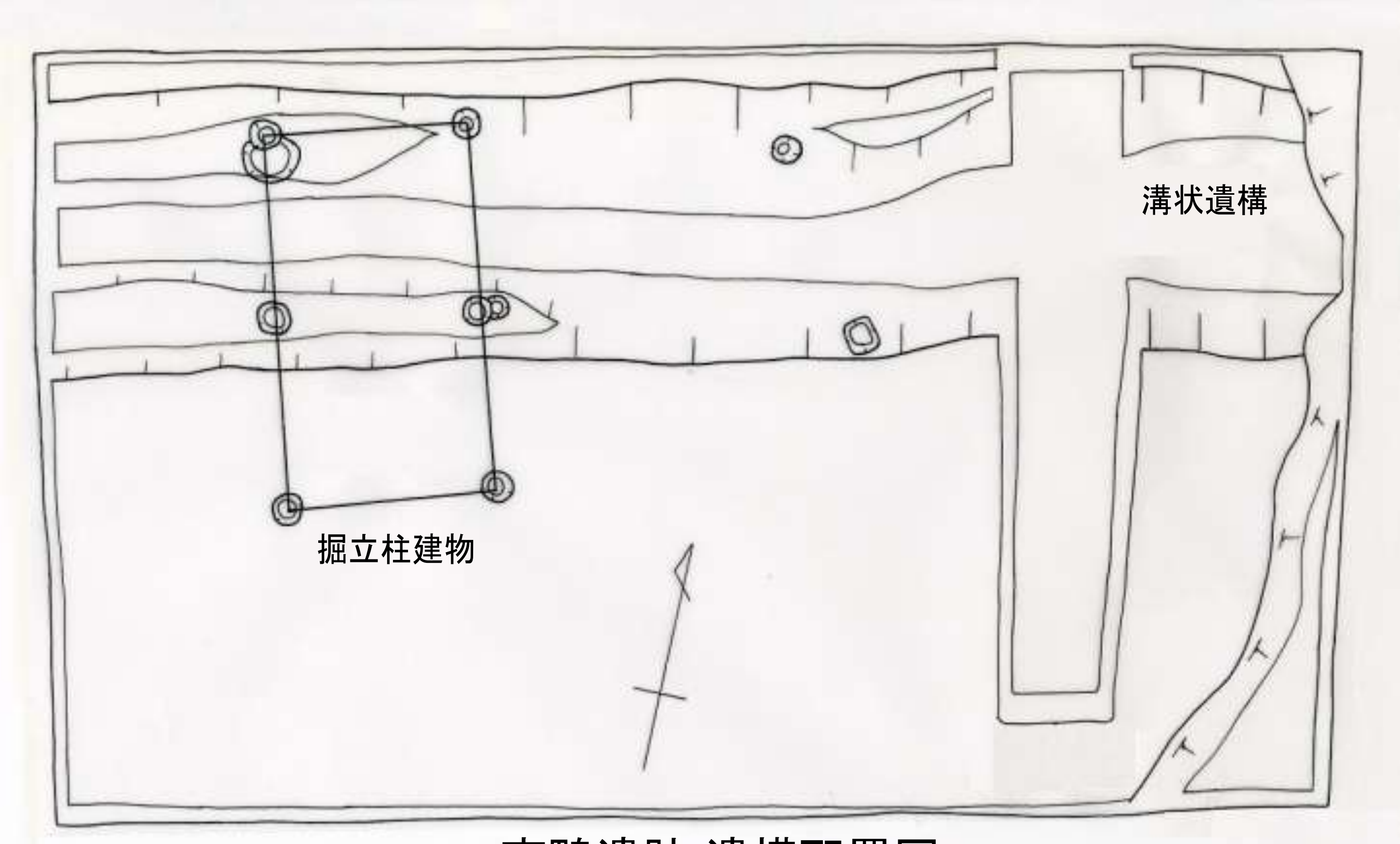
Vol.3（H25.1.31）

南鴨（みなみがも）遺跡発掘調査概報

教育委員会では昨年の７月･10月･12月に続けて、平成25年１月にも南鴨遺跡で調査を行いました。先のVol.2では石製の紡錘車（ぼうすいしゃ）が出土したことを報告しましたが、今回はどのような遺構が発見されたかを紹介したいと思います。

今回発見した遺構は溝状遺構（みぞじょういこう）1条と掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）1棟です。

溝状遺構は西に約30°西傾しているため条里地割に沿ったものであるといえます。出土した遺物は瓦器（がき）が多くを占め、この溝状遺構の埋没時期は中世、特に13世紀（約800年前）を中心としたものであると分かりました。ただし溝を掘削する段階や埋没



南鴨遺跡 遺構配置図

溝状遺構

掘立柱建物

途中で古墳時代中期ころから古代にかけての遺物（須恵器•黒色土器･石製紡錘車など）も合わせて出土しました。そのため溝状遺構が開削される以前から何らかの生活の痕跡がこの地にあったのではないかと想定できます。

それを証明するのがもうひとつの遺構である掘立柱建物です。なぜならこの建物の柱穴の多くは溝状遺構の下から発見されたからです。遺跡の法則として、古いものから新しいものへと順々に折り重なっていくものです。そのためこの建物は溝状遺構よりも古いものであると言えるのです。この建物は柱間が1×2間の小型のもので、時期は溝状遺構との前後関係から、古代の終わりから中世の初めくらいの建物であると考えられます。

以上のことから南鴨遺跡では、今回の調査区以外でも遺構が広がっていき、古代の終わりから中世にかけての集落が存在するのではないかと考えています。

多度津町教育委員会